

令和4年10月1日

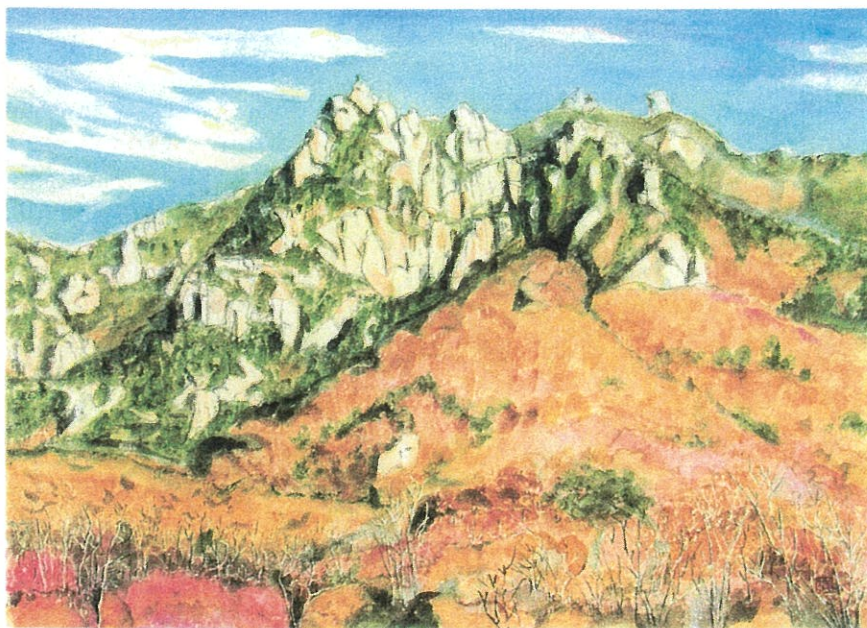
# 甲府 旧友会だより

## 第28号

発行 NHK甲府旧友会

### 目次

		ページ
◇ 生物進化論	会長 梅津 勲	1
◇ 特別寄稿	局長 安出 光伸	2～3
◇ 会員短信	会員	4～14
◇ 私の提言	桜井 実	15～16
◇ 甲府旧友会の動き		17
◇ 甲府放送局の人事往来		18～19
◇ 「ご挨拶」	転入・新任基幹職	20～21
◇ 共済会からのお知らせ・NHK直営保養所のご案内		22～23
◇ 甲府旧友会規約		24～25
◇ 編集あとがき		26



甲府旧友会々員 桜井 実 画

桜井 実 晩秋のみずがき山 水彩 P20

## 生物進化論

甲府旧友会  
会長 梅津 勲

今年度、十余年ぶりに自治会役員を引き受けることになった。生涯最後のご奉公かと、若い役員さん達に混じり、早朝のゴミ置き場の管理当番にも久々に参加している。毎月一回、甲府市の有価物回収日があるが、十余年前と比較すると古新聞紙の排出量がめっきり減っていることに気付いた。感覚的には1/3程度に減少しているのではないかと思われる。日々のニュースの取得源が簡便なスマホに変わり、新聞を購読する家庭が少なくなったと言うことらしい。都心の通勤風景の映像でも電車内で新聞・図書類を読む人は皆無で、情報取得には皆スマホを活用しているようだ。我々の頃は新聞を小さく折り畳み、満員の電車内で文字通り肩身を狭くして読んでいたことを思い出した。新聞業界でも新聞をスマホやタブレット、PCで読めるように電子版（デジタル化）が進んでいるようだ。

放送メディアの分野でもインターネットとの連携が急速に進んでいて、今年の参院選でもネットメディアに政治家が出演して政策を発信したり、NHKでもNHK+などネットでの発信、民放各社もTVerで見逃し放送サービスを行っており、TV受像機で直接ネット番組を視聴することは当たり前になってきたようだ。広告費の統計でもテレビコマーシャル費はネットメディアの広告費に数年前に追い越されたようだ。大分以前から言われていた放送と通信の融合がいよいよ現実となってきたということか。

ここで思い出すのが「生物進化論」である。私の新人時代、昭和40年前後だったと記憶しているが、当時の前田義徳会長が放送記念日の会長挨拶で、トマス・ハックスリーの生物進化論を主題に滔々と話された。「企業が成長段階から成熟期となり、その後衰退期を迎えるライフサイクルは、何もせずに放っておく限り30年程度に過ぎない」という企業30年生存論が当時喧伝され、NHKも常に自己変革を続けて進化を繰り返していかなければ時代に取り残され埋没していかざるを得ない、という要旨であったと思う。協会設立から約40年、テレビ本放送開始から10余年を経過していた頃で、前田義徳会長はNHKのその後の事業展開に強い思いを抱いていたのであろう。入局間もない私には、企業を生命体として進化論的に考えるということが新鮮で今でも折に触れて思いだす。当時は日本も高度成長期で、NHKも東京オリンピック放送を成功させ、テレビ放送のカラー化、テレビ・FM放送網の全国展開、渋谷の放送センター・地方局の放送会館建設など右肩上がり、自分自身も若く、懐かしき良き時代であったと思い出している。

テレビ本放送開始から既に70年近くになる。仄聞するところでは、NHK中期経営計画では、経営規模の圧縮と、衛星放送とラジオAM放送のチャンネルを整理・削減、受信料制度の見直しなどが盛り込まれているらしい。ネットとの併存時代を迎え、公共放送として生物進化論的にはどういう方向に向かうのか。既に進化の余地のない老生としても大いに気になるところである。

{ 編集あとがき }

- ◇新型コロナ感染者が第六波・第七波と続き、そのたびに昨年とは比較にならない爆発的拡大に日常生活の制約を余儀なくされた。加えて、ロシアの軍事侵攻により、食料危機・燃料危機など全世界が日常生活を圧迫された。
- ◇甲府旧友会の定例行事である総会・秋季懇親会も残念なことです、三年連続で中止の判断となりました。
- ◇甲府旧友会の運営も課題が多く、会員相互の親睦会をコロナ禍において、どのような形で実施出来るか模索中です。是非皆様のご意見をお寄せ下さい。
- ◇その状況の中、本年度旧友会役員の改選があり、新編集部での「旧友会だよりの発行となりました。慣れない作業で汗をかきかきの編集でしたが、会員諸兄弟のご協力を頂き中身の濃い機関紙をお届けすることができました。
- ◇安出局長はじめ、転入・新任基幹職の皆様からもお忙しいなかで、原稿をお寄せ頂き誠にありがとうございました。北杜市白州町が本籍地という安出局長からは、特別寄稿に今年度組織改正、最近のNHKがおかれている状況、さらに山梨県の「接触率&支払率」の状況等をお知らせ頂きました。来年の大河ドラマ「どうする家康」では武田家がたっぷり描かれるようで大変期待するところです。
- ◇安出局長はじめ甲府局職員との懇親を深める機会（番組への意見交換や野外活動）も模索したいと考えます。
- ◇NHK直営保養所、京都「浴風荘」が令和5年3月をもって閉鎖となります。これも時代の流れで仕方がないのでしょうか、淋しい限りです。
- ◇今年度から旧友会の編集部を仰せつかりましたが、この「旧友会だより」では会員短信欄での紙で頂いた原稿をパソコンで打ち直し、その次はEメールで頂いた原稿を挿入して編集する作業でした、今までEメールとかは全く無縁な私にとって理解するまで頭の中は混乱するばかりで、さらに全体の構成や体裁など、先輩に度々ご指導頂きながらやっと何とか形にすることができました、今更ながら歴代の事務局の皆さんに頭が下がります。
- ◇この作業をする中で、昔甲府分会の機関紙「巨峰」を思い出しました、初代の編集長は故長澤武仁さんだったと記憶していますが、当時は手書きでしかもそれをコピー機で印刷する手法でした、長澤さんの丁寧な文字で枠取りもバランスよく、写真も上手く挿入した「巨峰」は本当に見事な出来栄で、これぞ職人芸だと深く感動したのを覚えています、現代は全て機械化になり便利になりましたが手作りの「巨峰」は人間味が溢れた暖かいものだったように懐かしく思います。(K&Kコンビ)

{ 第 28 号 編集担当 } 小林達男 功刀良裕